



第7回 SAE きらら作品コンクール 審査結果

SAE きらら作品コンクール事務局

代表 水野 美保

●個人各賞の位置づけ

金賞→銀賞→銅賞→佳作 これは、すべての年齢の子どもが対象で、年齢差は加味されません。

ハート賞・若葉賞
(絵日記) (作文) そこで生まれたのが、この2つの賞です。年中児以下の作品が対象で、短くとも、文字がよろけていても、キラッと光るその子の感性が見える作品が受賞の対象になります。年長児と佳作を争うような年中児や年少児の作品は、この賞には選ばれません。佳作以上の作品は、現時点で一定レベルの完成度が必要ですが、この2つの賞は、成長途中的作品が選ばれます。佳作までの選考基準とは違います。

ホープ賞 園の先生方が選ぶ賞です。年長児の中で、賞に入るような作品は書けないけれど、これまで頑張って日記を書き続けてきた子どもを選んでいただきます。ホープ賞の作品が優れている場合には、佳作にアップすることもあります。(毎年、10名ほどいます。)

☆絵日記準佳作の扱い 入賞ではありませんので賞状はありませんが、佳作に準ずるレベルの作品として、「きらら with SAE」誌のモノクロページに掲載されます。

●団体各賞について

団体賞は、原則、年長児が全員応募している園が対象です。各作品にポイントをつけていき、ポイントの合計点を年長児の数で割ったものが基礎点となります。これが一定以上になっていると、団体賞、優秀団体賞となります。この上の、特別優秀と最優秀の選定には、個人の上位入賞者加点、及び、年中児以下の子ども達の参加率も加味されます。

●つぶやきを全保護者に！

感性豊かな作品は、先生の指導だけでは生まれません。家庭での親子の会話は、作文にもとても大きな影響を与えます。また、つぶやき扱いは、親が、わが子の言葉に耳を傾けるきっかけになります。誰でもできることなので、低年齢から保護者の方に呼びかけ、来年は、全員応募して下さい。

●全作品を読んでの所感

「コンクールに応募する限りは立派な作品で！」と思われる先生もいらっしゃるかと思いますが、あくまでも主体は「子ども」です。手の入れすぎは、個性をなくし、画一的な作品になってしまいます。立派に仕上がっているのですが、クラス全員、同じような作品になっている園もありました。一人ひとりの良さを生かすこと、子ども自身が、「頑張って書いたよ！」という作品であってほしいと思います。